

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2004年10月下旬から12月上旬までの旬別

対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業:さんま棒受網漁業

対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 減少を続け、10月下旬以降は低位水準となる。11月中旬以降は断続的になる。

(2) 漁場: 10月下旬は、厚岸沖～襟裳岬南沖に漁場ができる。厚岸沖の漁場は徐々に消滅し、11月上旬は襟裳岬南沖が主漁場となる。11月中旬以降は、来遊量が少ないため、漁場ができたとしても散発的となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 10月下旬は低位水準から増加し、11月上旬には中位水準となる。11月中旬以降、徐々に減少する。11月下旬は低位水準となり、12月上旬以降は断続的になる。

(2) 漁場: 10月下旬は、黒崎沖～金華山沖が主漁場となる。11月上旬になると、三陸南部では漁場が持続するものの、三陸北部で散発的となり、11月中旬以降は南偏傾向となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 10月下旬には、低位水準ではあるが徐々に増加し、11月上旬には中位水準となる。11月中旬は中位水準で推移するが、11月下旬から減少し、12月上旬には低位水準となる。

(2) 漁場: 10月下旬は、常磐北部および常磐南部～鹿島灘で散発的に漁場ができる。11月上旬以降は、沖合から暖水が波及する可能性があり、小名浜沖～鹿島灘にかけて漁場が持続する。12月上旬以降は、鹿島灘が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	低位水準	断続的	断続的	
	漁 場	厚岸沖～襟裳岬南沖	襟裳岬南沖	散発的	散発的	
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位水準	中位減少	低位減少	断続的
	漁 場	黒崎沖～金華山沖	黒崎沖～金華山沖	南偏傾向	南偏傾向	南偏傾向
常磐海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位水準	中位水準	中位減少	低位減少
	漁 場	常磐北部・南部～鹿島灘	小名浜沖～鹿島灘	小名浜沖～鹿島灘	小名浜沖～鹿島灘	鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(10月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月下旬をやや下回り、高水準だった昨年もやや下回った。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、中位水準で徐々に減少した模様。

(2) 漁場

今期は、落石南東 40 海里～南 80 海里付近、落石南東 15 海里～釧路南 40 海里付近、襟裳岬東 15 海里～南 20 海里付近、襟裳岬南 40～55 海里が漁場となった。

落石南東 40 海里～南 80 海里付近の表面水温 13～15 台が漁場となったのは、1 日夜～4 日夜と 7 日夜であった。大型船・小型船ともに操業。小型船で満船となる船が多く、大型船で 50～60 トン漁獲した日が多かった。

落石南東 15 海里～釧路南 40 海里付近の表面水温 13～15 台では、3 日夜以降、漁場が持続した。大型船・小型船ともに操業し、小型船で満船となる船が多く、大型船で 50～60 トン漁獲した日が多かった。期前半は厚い群が多かったものの、徐々に薄い群も混じるようになった。

落石南 80 海里付近の表面水温 14～16 台では、25 日夜以降主漁場となった。大型船・小型船ともに操業。小型船で満船となる船が多く、大型船で最高 60 トン、20～50 トン程度漁獲した船が多かった。

襟裳岬東 15 海里～南 20 海里付近の表面水温 14～15 台が漁場となったのは、5 日夜、9 日夜、10 日夜であった。大型船が操業。5 日は 10 トン前後、9 日夜は 30～60 トン、10 日夜は数トン程度漁獲した。

襟裳岬南 40～55 海里付近の表面水温 13～16 台が漁場となったのは、1 日夜、5 日夜と 8 日夜であった。大型船が操業。1 日夜は 30～60 トン漁獲。5 日夜は 60 トン漁獲した船もあったが、他は数トン～20 トン程度。8 日夜は、60 トン漁獲した船もあったが、他は 20 トン前後。

(3) 魚体

大 3-中 4-小 3～3-3-4 が主体。2-3-5～2-2-4 も混じる。期初めは、一時的に大型魚の割合が高い群もあったが、その後急激に中型以下の割合が増加した。群によっては、5 割～7 割が中型(体長 28cm 台以下)となった。大型魚は 30cm モード、中型魚は 26～27cm モードであった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

低水準ながらも来遊があった。7 日夜には、漁船による本格的な操業もあった。

(2) 漁場

7 日夜、八戸東北東 60 海里的表面水温 15 台が漁場となった。大型船が操業。船間差が大きく、数隻は 60 トン漁獲したが、多くの船は 20～45 トン程度漁獲。数トンで終わる船もあった。

(3) 魚体

大 3-中 4-小 3～3-3-4。7 日夜に岩手県水産技術研究センター・岩手丸および千葉県水産研究センター・房総丸が測定した結果によると、26～27cm モードの中型魚が 5 割、30cm モードの大型魚が 5 割であった。